

教育研修会

日時：R5年12月19日(火) 17時から17時45分

場所：新王子病院 4F 会議室A

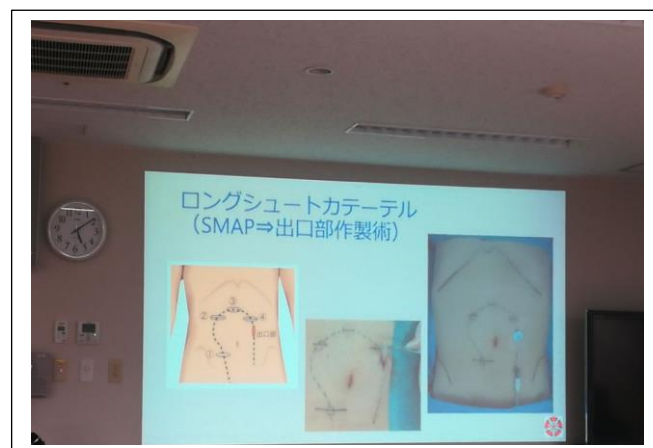
講師：済生会八幡総合病院 腎センター主任部長 安永親生先生

テーマ：血液透析からAPD-HDハイブリッド治療に移行した例

講義中の様子です。

身体的メリット	社会的メリット	精神的な利点
1. 循環動態の安定性 (vs HD後の低血圧)	1. 在宅透析療法であり、月に1~2回の通院で済む	1. 自己管理の意識が高まる
2. 残存腎機能(RKF)の維持	2. 時間的な束縛が軽く、社会復帰しやすい	2. 高齢者において認知症の進行予防になる
3. B型肝炎、C型肝炎などの合併率が低い	3. QOLを低下させる影響が少ない	
4. たんぱくやカリウムなどの食事制限が軽い	4. 災害時においても自宅の器材、薬剤の在庫を用いて治療継続ができる	
5. バスキュラーアクセスを必要としない		
6. 透析に伴う抗凝固療法が不要		
7. 生体適合性が良い		

医学的デメリット	日常生活上のデメリット
1. 小分子物質の除去効率が悪い	1. 基本的に連日透析なので バッグ交換の煩わしさ がある(高齢者の場合には隔日に行うこともある)
2. 自己管理 に伴う衛生手技が必要である	2. 職場などでバッグ交換を実施する場合、 隔離された交換スペース が必要となる
3. 視力低下や肢体不自由のある患者では実施が困難な場合がある	3. 透析液の保管スペースが必要となる
4. 腰椎や脊椎障害のある患者では注意が必要	
5. 糖質の吸収に伴い 血糖の上昇 や糖尿病の増悪がみられる	
6. 低たんぱく血症を合併しやすい	
7. 腹膜炎 などのリスクがある	
8. 腹膜カテーテルによる 出口部/トンネル感染 のリスクがある	



今回の症例は血液透析から PD へ移行した症例でした。この患者さんは、レギュニールとエクストラニールの透析液で自動腹膜還流装置を用いた週一回の血液透析を組み合わせたハイブリッド透析を施行されている。PD のメリットとして循環動態は安定し、カリウムなどの食事制限は緩く通院回数も減少できます。近年では、比較的若年者では保険適応となっているハイブリッド透析の症例が増加傾向にあります。また PD の離脱理由として1位体液管理不良、2位腹膜炎であり、前者に関しては塩分摂取量管理、後者に関しては出口部管理方法の影響が大きいとのことです。

腹膜透析はライフスタイルに合わせ生活面における自由の高さがあります。自己管理が必要ではありますが夜間 APD を利用した家族アシストの透析も可能です。メリット・デメリットはありますが、これから増えていくかもしれない HD のやり方かもしれないと感じました。